

ロック・ギタリストのための

演奏能力開発エクササイズ

解説書

採譜・解説 / スコット・テイ・ジョンソン

リットーミュージック



目次

はじめに	4
注意事項	4
ハウ・トゥ・プレイ	5

PART 1

Warm Up Exercises ● ウォーミング・アップ・エクササイズ 6

exercise 1a, b	クロマチック・スケール・アップ・アンド・ダウン (スロー／ファースト)	6
exercise 2	3度の縦移動	7
exercise 3	シンメトリック・パターン1	8
exercise 4	シンメトリック・パターン2	9
exercise 5	プリング・オフ強化エクササイズ	10
exercise 6a, b	トライアド的アルペジオ・リフ(スロー／ファースト)	12
exercise 7	ハンマリング・オンとプリング・オフのコンビネーション	13
exercise 8	ミュート・エクササイズ	14
exercise 9	人工ハーモニクス・エクササイズ	15
exercise 10	同音移動フィンガリング・エクササイズ	16

PART 2

Rhythm Playing Exercises ● リズム・プレイ・エクササイズ 17

exercise 11a	パワー・コード・エクササイズ①	18
exercise 11b	パワー・コード・エクササイズ②	19
exercise 12	ルート(ボトム)＋5度(トップ)のコード	21
exercise 13	5度(ボトム)＋ルート(トップ)のコード	22
exercise 14	ルート＋5度＋ルートのコード	23
exercise 15a	手のひらミュートとアクセントを使った 5度のコード①	24
exercise 15b	手のひらミュートとアクセントを使った 5度のコード②	25
exercise 16	オープンAのペダル・リフ	27
exercise 17	異なるフィンガリングによるブルース・グルーヴ	29
exercise 18	ロックンロール・グルーヴ・エクササイズ	31
exercise 19	ファンキー・コード・エクササイズ	33
exercise 20	R&Bグルーヴ・エクササイズ	35

PART 3

Bending Exercises ● ベンド・エクササイズ 36

exercise 21	正確なピッチのためのベンド・エクササイズ	37
exercise 22	メジャー・スケールにおける半音ベンド(上行)	38

exercise 23	メジャー・スケールにおける半音ベンド(下行)	38
exercise 24	メジャー・スケールにおける半音と全音ベンド	39
exercise 25	G音に関わる様々なインターバルのベンド	40
exercise 26	様々なインターバルのベンド(1オクターヴ下)	41
exercise 27	同音異フレット半音ベンド	42
exercise 28	全音ベンド・アップ・エクササイズ	43
exercise 29	プリ・ベンド(ベンド・ダウン)・エクササイズ	44

PART 4

Soloing Exercises ● ソロ・エクササイズ 45

exercise 30a-c	2本の弦を使ったFメジャー・スケール	45
exercise 31a-f	5つのGマイナー・ペンタトニック・パターン	48
exercise 32	ペンタトニック・スケール・ポジション1(上行)	51
exercise 33	ペンタトニック・スケール・ポジション2(下行)	52
exercise 34	ペンタトニック・スケール・ポジション3(上行～下行)	52
exercise 35	ペンタトニック・スケール・ポジション3(下行～上行)	53
exercise 36a-b	2本の弦を使った指板上の移動パターン1	54
exercise 37a-b	2本の弦を使った指板上の移動パターン2	56
exercise 38a-b	2本の弦を使った指板上の移動パターン3	58
exercise 39	ローEの開放弦を使ったプリング・オフ	61
exercise 40	人工ハーモニクスによるロック・エフェクト	63
exercise 41	人工ハーモニクス＋ミュートによるロック・エフェクト	64
exercise 42	人工ハーモニクス＋人工フランジャーによる ロック・エフェクト	65

PART 5

Advanced Rhythm Exercises ● アドヴァンス・リズム・エクササイズ 66

exercise 43	サザン・ロック・グルーヴ	66
exercise 44	メタル・グルーヴ	68
exercise 45	シンコペート・プリング・オフ	70
exercise 46	テキサス・ブルース・コード	72
exercise 47	スライド・ギター・リフ	74
exercise 48	ヘヴィ・バラード・グルーヴ	75
exercise 49	70年代的ロック・スタイル	76
exercise 50	ドロップDバラード	77
exercise 51	ドロップDヘヴィ・フィフス(5th)	79
exercise 52	ドロップDシャッフル	80

デモ演奏について 84

おわりに 86

プロフィール 87

CD/DVDインフォメーション 87

はじめに

私の初めての教則ビデオによろこそこのビデオでは、演奏者として、教育者として、ギターを愛する者として、過去25年間に渡って築いてきたテクニックのいくつかを紹介いたします。私はボストンのバークリー音楽院の助教授として何年にも渡り教えてきましたが、かねてからこうした教則ビデオを是非作ってみたいと思っていました。幸運にも同校の教授で私の友人でもあるトモ藤田にこのビデオ・シリーズの新作のインストラクターをやってくれないかと頼まれ、喜び勇んで引き受けることにしたのです。

私はこれまで、ありとあらゆる音楽を演奏してきたと思います。ポップスからジャズ、カントリーやファンク、ブルースなど、私はすべての音楽が大好きですし、幸運なことに日本やヨーロッパ、北欧、オーストラリア、韓国、中国などをツアーする機会に恵まれました。私にとってギターは世界中を回るパスポートのようなもので、それによって様々な国ですばらしい人たちと巡り会えることができたと思っています。

このビデオでは、自分自身の演奏を向上させた秘訣とも言えるたくさんの事柄を順々に進めていきたいと思っています。それらの中には、私自身が夢中になったギター・プレイヤー達から拝借させてもらったアイデアなども含まれています。このビデオによって、皆さんがギター・プレイを今まで以上に思う存分楽しんでもらうことができたらと願ってやみません。

このビデオを観てくれてありがとう。それでは始めましょう!

注意事項

始める前に、ここでいくつかの注意事項をお伝えしておきましょう。

■**ギター**……最初に、あなたのギターは正しく調整されているでしょうか?まず、12フレット目のハーモニクス音と、通常の12フレット目の音とのピッチを比べてみてください。もしもこれらのピッチが合っていないければ、ブリッジ部のサドルを動かして調整してください。それらを正確に行うためにはチューナーが必要です。

■**弦**……演奏した後はタオルなどで弦をきれいに拭くように習慣づけましょう。弦が長持ちしますし、サウンドも良くなります。弦が手垢などで汚れているからといって、すぐに新しい弦に交換する必要はありません。普通の消しゴムを使って弦に残っている汚れやサビをこすり取ることができます。その後で消毒用アルコールを少量使って1弦1弦をきれいに拭きます。これで弦はもとどおりに近いほどスムーズになるはずですよ。

■**アンプ**……まず、あなたの持っているアンプはどのようなサウンドがするのかを知るために、全てのトーン・コントロールを真ん中のミドル・ポジションに設定します。目盛りが1から10となっている場合は、ボリュームを除いてすべて5に設定します。そして自分の耳に心地よいボリュームでしばらく演奏してみましょう。これがあなたのアンプの通常のトーンであると言えます。トーンつまみを変な具合にバラバラに回してしまうと、音が悪くなってしまふことがあります。もしもチューブ(真空管)・アンプを持っている場合は、アンプを“オン”や“オフ”にする前に“スタンバイ”にするようにすることをお勧めします。これによって真空管やアンプのサウンドをより良く、より長持ちさせることができるからです。

■**ギターのセッティング**……通常はギターのボリュームとトーン・ノブは高め(8から10)に設定します。それによってアンプは力強く良いサウンドを生み出すことが

できます。しかし、オーバー・ドライブの付いたチューブ・アンプを使う場合には、ギターのボリューム・コントロールを調整ことによって真価を発揮するのです。ボリューム・ノブは、ボリューム以上にトーンを変化させます。ボリューム・ノブを高めにするほど、トーンはダーティになります。逆にボリュームを下げていけば、トーンはクリーンになっていきます。

たくさんのギター・プレイヤーが、ライブのときにはこうした特性を非常にうまく利用しています。リズム・ギターを演奏するときはボリューム・ノブを低めに戻し、ソロを取るときはボリュームを思い切り上げて泣きの入ったソロを取るわけですよ。私の意見としては、ギターのボリューム・ノブとはトーンのことを言い、トーン・ノブは基本的には「さわるべからず」と考えれば良いと思います。

ハウ・トゥ・プレイ

私自身は、心地よいタイム感で演奏することに大変気を使います。機械は常に正確かつ完璧なタイムを出しますが、人間なら誰でも楽しいときの方が心地よいタイム感を出すことができます。ミュートを付けても付けなくても、アクセントを付けても付けなくても、あなたの演奏に人々がどう反応するかは、あなたのグルーブ次第なのです。

ミュートに関しては、たくさんの方法があるということに気が付かない人が多いと思います。例えばあらゆるエクササイズを、完全に弦をミュートするまで手のひらを使って徐々にミュートして試してみてください。それによって生み出されるあらゆるテクスチャーを感じ取ってみてください。

私はソロを演奏するときでもリズム・ギターを演奏するときでも、ほとんど常に音を若干ミュートさせ、自分の思うままにミュートをゆるめたり強めたりできるように絶えずスペースを取っています。つまり、どこへでも行けるようにしているわけです。

音の長さも、グルーブにとっては大変重要になります。例えばピックで弾いた音を、弦を押さえている手(指)を離すことによって音を切ってみましょう。そして、フレットボード(指板)から指を離すタイミングを早めてみましょう。これによって、異なる長さの音がえられ、より音楽的でしっかりとした音の連なりを作り出すことができます。

もうひとつ、良いグルーブを生み出す方法としては、常に何かのビートやパルスと共に練習するという事です。ドラム・マシンやメトロノームを使うのも良い方法です。

他のミュージシャンとジャムをすることは、向上を目指すギタリストにとっては常に良い方法と言えるでしょう。運良くあなたよりも実力が上の誰かと演奏することができた場合は、エゴは捨て、その連中と一緒に演奏しましょう。そうした連中が学んできたことを分かち合えるということは、誰にとってもわくわくすることです。このことは、音楽的な成長をなし得る非常に重要な方法なのです。

このビデオにおけるすべてのエクササイズにおいて、私が演奏していることだけで終わらないでください。多くのエクササイズは、興味をもってもらうために短めに作られています。可能な限り、すべての弦を使い、すべてのフレットを使って練習してみてください。そして自分自身のバリエーションをどんどん作ってみてください。私自身もそれらを是非聴いてみたいと思います!

譜面の解説

●…主な目的 / ★…練習方法 / ■…ポイント

PART 1

Warm Up Exercises ウォーミング・アップ・エクササイズ

パート1で紹介するエクササイズは、筋肉をほぐし、あなたの腕や手や指(もしかすると脳まで)の血行を良くしようというもの、つまりウォーミング・アップです。練習の前にウォーミング・アップをするのは良い方法です。

とにかくリラックスすることを覚えてください。それがスタミナや音楽的な豊かさを生み出します。もしも緊張し始めたり体のどこかが硬直してきたら、そのときは休憩を取る時間です。やりすぎは、後になって長期に渡る問題を引き起こします。良い姿勢でイスに座り、呼吸を整えることも忘れないでください。

exercise 1a chromatic scale up + down the neck (slower)

●クロマチック・スケール・アップ・アンド・ダウン(スロー)

exercise 1b chromatic scale up + down the neck (faster)

●クロマチック・スケール・アップ・アンド・ダウン(ファースト)

a ♩ = 55 b ♩ = 110

The image shows four systems of musical notation for exercise 1a and 1b. Each system includes a treble clef staff with a key signature of one flat, a bass clef staff with fret numbers (T, A, B), and a series of triplets. The first system (a) is for a slower tempo (♩ = 55) and the second (b) is for a faster tempo (♩ = 110). The notation includes chromatic scales both ascending and descending across the neck, with triplets and fingering instructions like 'etc.' and 'S'. Fret numbers are provided for each string in the bass staff.

- 指の血行を良くします。
- フィンガーボードに慣れ親しみましょう。
- 両手の技術的な熟達度を増すためのエクササイズです。
- ★メトロノームかドラム・マシーンを使い、自分にとってちょうど良いテンポをセットし、クロマチック・スケールのダウン(下行)とアップ(上行)を練習しましょう。
- ★次のスケールに移る直前に、常にマイナー3rd(短3度)下または上のスケールを頭の中で転調して先取りしてきましょう。
- ★「S」はスライドです。
- ★bの譜面にある「□」はダウン・ピッキング、「V」はアップ・ピッキングです。
- このエクササイズのサイクルを、高音・低音共にフレットがなくなる位置まで続けてみてください。
- 常に2、3個先の音と指の位置を目標に入れて練習しましょう。
- このスケールは、最終的に目標とする音に落ち着くことができれば、あらゆるコードに適用できます
- bでは特に、一定のテンポだけで練習しないようにしてください。テンポを徐々に上げていき、サウンドが雑になってきたら(テープに録音してチェックすると自ずとわかります)、自分がスムーズに自信を持って演奏できるテンポまで戻してみてください。これは速さを競うコンテストではないということを理解してください。

exercise 2 3rds up + across the neck ●3度の縦移動

The image shows four systems of musical notation for exercise 2. Each system includes a treble clef staff with a key signature of one flat, a bass clef staff with fret numbers (T, A, B), and a series of triplets. The tempo is set at ♩ = 62. The notation shows 3rd intervals ascending and descending across the neck, with triplets and fingering instructions. Fret numbers are provided for each string in the bass staff.

- 6本の弦をできる限り使って、フレットボードをできる限りフルに活用するためのエクササイズです。
- ★あなたにとってちょうど良いテンポを見つけて演奏してみてください。
- 常に、次に弾く音を先取りするようにしてください。

exercise3 symmetric pattern #1 ●シンメトリック・パターン1

♩ = 100

8

T
A
B

3

8

T
A
B

5

8

T
A
B

7

8

T
A
B

9

8

T
A
B

- 基礎をしっかりと養い、指が少し広がるようにするエクササイズです。
- ★私がビデオで演奏しているものだけに止めず、フレットがなくなる位置まで続け、今度はそこから戻ってみてください。
- 各弦それぞれ3つの音の間には、常に1フレットのスペースを維持できるように心掛けてください。

exercise4 symmetric pattern #2 ●シンメトリック・パターン2

♩ = 89

8

T
A
B

3

8

T
A
B

5

8

T
A
B

7

8

T
A
B

- exercise3と同様です。
- ★exercise3と同様、私がビデオで演奏している部分だけでなく、音域をさらに広げて練習してください。1弦と2弦、2弦と3弦、3弦と4弦、4弦と5弦、5弦と6弦というようにすべての弦をペアで組み合わせ、このパターンを練習してみましょう。
- あなた自身のバリエーションやテンポでも試してみてください。

exercise5 pull offs ●プリング・オフ強化エクササイズ

♩ = 76

8

P H P H P H P P H P H P H P

T 5 2 5 2 5 2 5 2 5 3 5 3 5 3 5 3

A P H P H P H P P H P H P H P

B

2

8

P H P H P H simile.

T 5 4 5 4 5 4 5 4 8 5 8 5 8 5 8 5

A P H P H P H simile.

B

3 etc.

8

T 8 6 8 6 8 6 8 6 8 7 8 7 8 7 8 7

A

B

4

8

T 11 8 11 8 11 8 11 8 11 9 11 9 11 9 11 9

A

B

5

8

T 11 10 11 10 11 10 11 10 14 11 14 11 14 11 14 11

A

B

6

8

T 14 12 14 12 14 12 14 12 14 13 14 13 14 13 14 13

A

B

7

8

T 17 14 17 14 17 14 17 14 17 15 17 15 17 15 17 15

A

B

8

8

T 17 16 17 16 17 16 17 16 20 17 20 17 20 17 20 17

A

B

9

8

T 20 18 20 18 20 18 20 18 20 19 20 19 20 19 20 19 20

A

B

- プリング・オフを上達させるために必要な筋力をアップさせます。
- ★それぞれの弦の太さやテンション(張り具合)に慣れるために、6本すべての弦を使って練習しましょう。
- ★Pはプリング・オフ、Hはハンマリング・オンです。
- プリング・オフする際には常に人差し指が軸となります。つまり、プリングした後の音は人差し指によって押さえられていることになります。

exercise6a arpeggiated triad riffs (slower)

●トライアド的アルペジオ・リフ(スロー)

exercise6b arpeggiated triad riffs (faster)

●トライアド的アルペジオ・リフ(ファースト)

a, ♩ = 76 b, ♩ = 103

3

5

●トライアドによるアルペジオの形に慣れながら、16分音符のグルーブでウォーミング・アップしていきます。

★音は短めに、ダウン・ビート(裏拍=2、4拍)にアクセントを付けます。

★bのファースト・テンポでは、aよりもミュートを強めてみましょう。

■8分音符にデジタル・ディレイをかけて演奏すると、サウンドはとてまっかよくなります。

■bでは特にピッキングする側の手をゆったりとリラックスさせてください。

Exercise7 hammer ons + pull offs (all fingers)

●ハンマリング・オンとプリング・オフのコンビネーション

♩ = 69

simile.

3

5

simile.

7

8

●人差し指から小指まで、すべての指のコンビネーションを使ってハンマリング・オンとプリング・オフとの違いをしっかりと区別し、理解するエクササイズです。

★できるだけゆっくりとしたテンポで練習する方が良いでしょう。

★余計な音が鳴らないように充分気をつけましょう。

■このエクササイズでは、前半の4小節でハンマリング・オン、後半の4小節でプリング・オフを強く意識しています。

Exercise8 muting exercise ●ミュート・エクササイズ

♩ = 62

open p.m. open p.m. simile. p.m. p.m.

T
A
B 3-3-3-3-3-3-3-3-5-5-5-5-5-5-5-5 2-2-2-2-2-2-2-2-3-3-3-3-3-3-3-3

3

p.m. p.m. p.m.

T
A
B 5-5-5-5-5-5-5-5 2-2-2-2-2-2-2-2 4-4-4-4-4-4-4-4-5-5-5-5-5-5

5

p.m. p.m. p.m. p.m.

T
A
B 5-5-5-5-5-5-5-5 4-4-4-4-4-4-4-4 2-2-2-2-2-2-2-2 5-5-5-5-5-5-5-5

7

p.m. p.m. p.m. p.m.

T
A
B 3-3-3-3-3-3-3-3-2-2-2-2-2-2-2-2 5-5-5-5-5-5-5-5-3-3-3-3-3-3-3-3-3

- ピッキングする側の手のひらのミュートを使って、様々な音のバリエーションを見つけていくエクササイズです。
- ★ここでは2拍単位(16分音符が8つ単位)でスケールが上行・下行しますが、16分音符のグルーブの中でそれぞれ1拍ずつ交互に(16分音符4つごとに)ヘヴィにミュートします。「p.m.」(palm muting)は、手のひらによるミュートです。
- このエクササイズは、すべての弦で行えます。
- ひとつの音だけを使って、小節ごとにミュートを変化させていくのも良い練習方法です。

Exercise9 artificial harmonics ●人工ハーモニクス・エクササイズ

♩ = 66

T
A
B 3-6 3-4 5-3 5-3 5-4 3-6 3-3 6

3

T
A
B 3-4 5-3 5-6 3-6 3-6 3-6 3-6

5

T
A
B 5-3 5-3 5-4 3-6 3

- ブルース・スケールをプレイしながら、人工ハーモニクスの音をうまく出していくためのエクササイズです。
- ★アンプのゲインを上げれば、ハーモニクスの音も一層前に出てきます。
- ピックを親指と人差し指の間からほんの少しだけ出るくらいに引っ込めて、音を鳴らすというよりも、つまむようにして弦をはじきます。“スイート・スポット”と呼ばれる最適なポイントを見つけるまで、ピッキングする位置をいろいろと試してみましょう。

Exercise 11 running on a treadmill

●同音移動フィンガリング・エクササイズ

♩=188 (FINGER)

●腕や手、指の筋力を鍛えます。

★ビデオでは1弦のみを使っていますが、6本すべての弦を使って練習しましょう。

■ネック上を高音に向けて上がっていくにしたがって難しくなっていきます。なぜなら、フレット間が徐々にせばまっていくからです。どのくらいまで高いポジションに行けるか試してみましょう。

■最後の3小節は3連符になっていますが、弾きにくい場合は無理をしないでください。正確に弾くことを優先させましょう。

PART 2

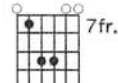

Rhythm Playing Exercises
リズム・プレイ・エクササイズ

リズム・プレイというのは、恐らく良いギター・プレイヤーになる上で最も大切な部分であると思います。多くのプロ・ギタリストでさえも、今もリズム・プレイに多くの時間を費やしています。

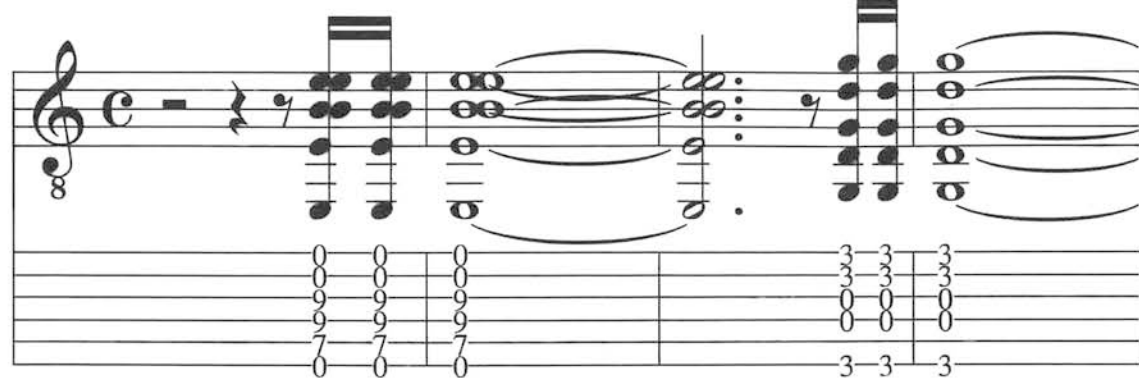
エクササイズを演奏するときは、ピックを持つ側の手のひらを使って、できるだけいろいろなミュートを試してみてください。ミュートというのは、スイッチのオン/オフのようなものではなく、ボリューム・ノブのように微妙で自由なセッティングが可能なのだと思います。

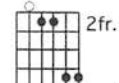

exercise 11から14では、パワー・コードのバリエーションを紹介します。パワー・コードには、いろいろな形やサイズがありますが、ここでのエクササイズにおける共通したアイデアは、“完全”度数しか使用していないことです(完全4度/5度/オクターヴ)。これが強い振動を引き起こし、パワーとサステインを生み出します。それではやってみましょう。

exercise11a huge power chords 1 ●パワー・コード・エクササイズ①

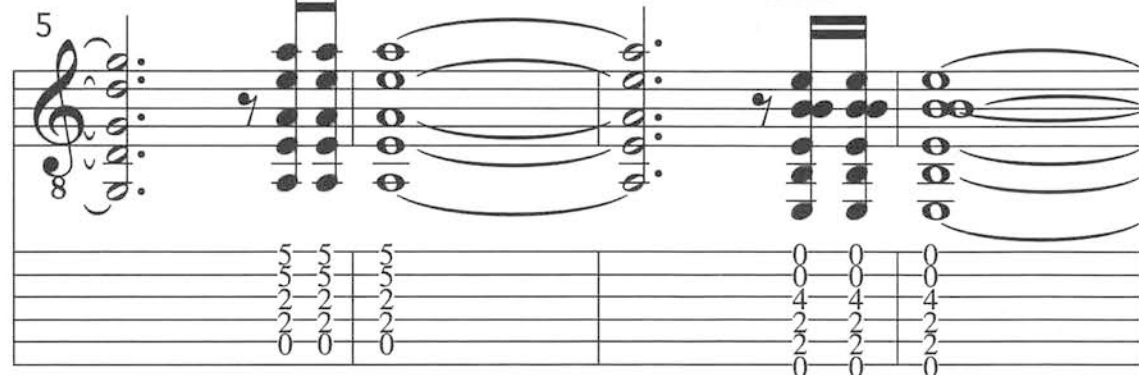
EPOWER  **GPOWER** 



♩ = 122



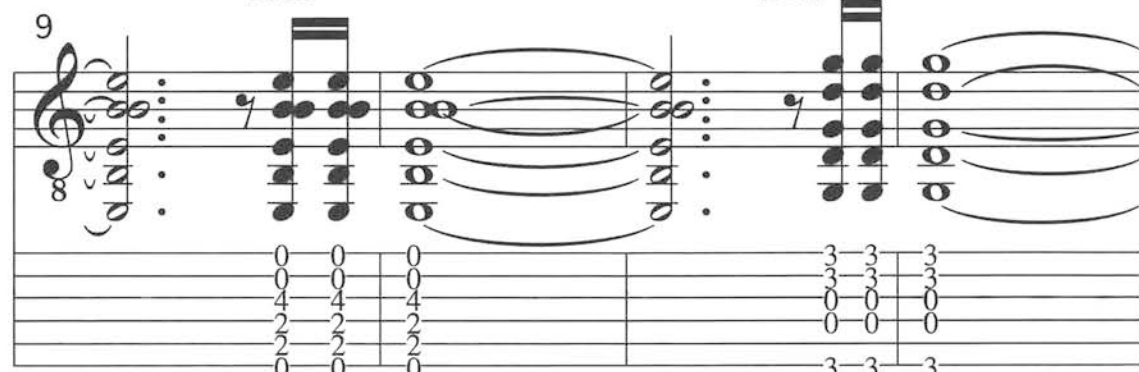
APOWER  **EPOWER** 

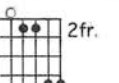
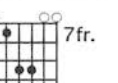
5



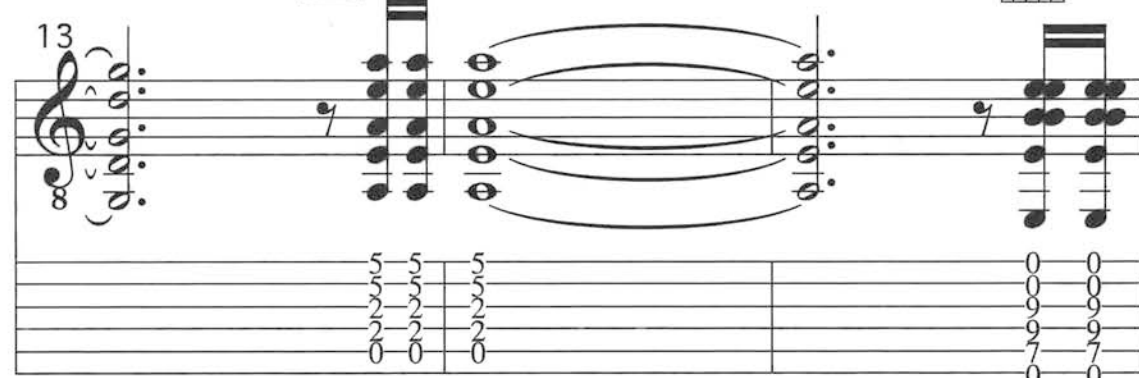
EPOWER  **GPOWER** 


9



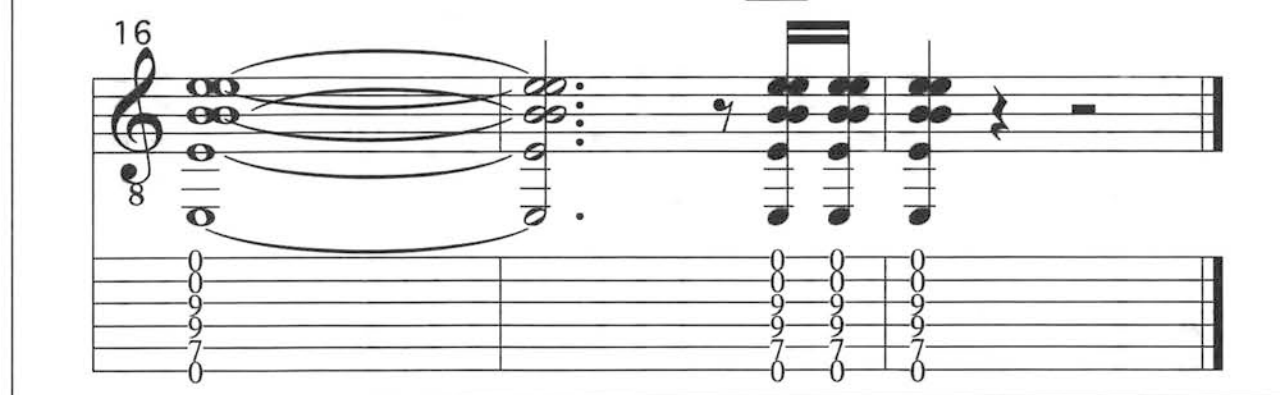
APOWER  **EPOWER2** 

13





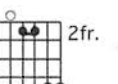

EPOWER2 

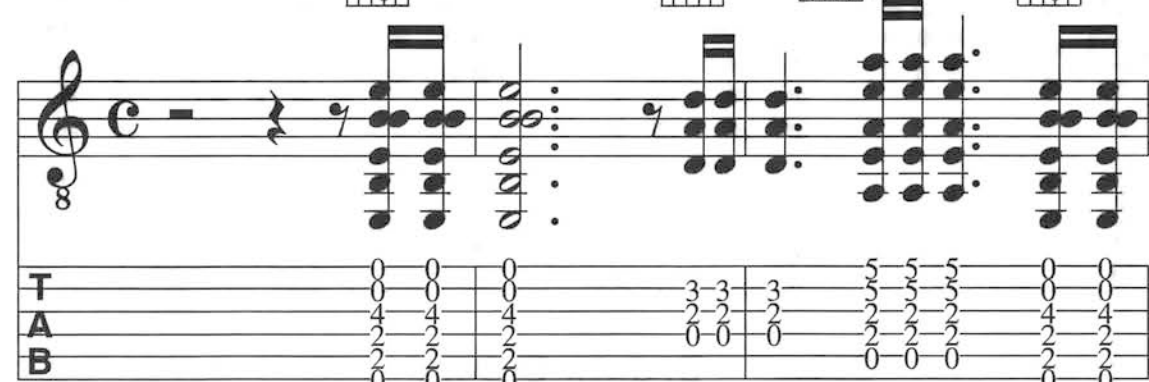
16







exercise11b huge power chords 2 ●パワー・コード・エクササイズ②

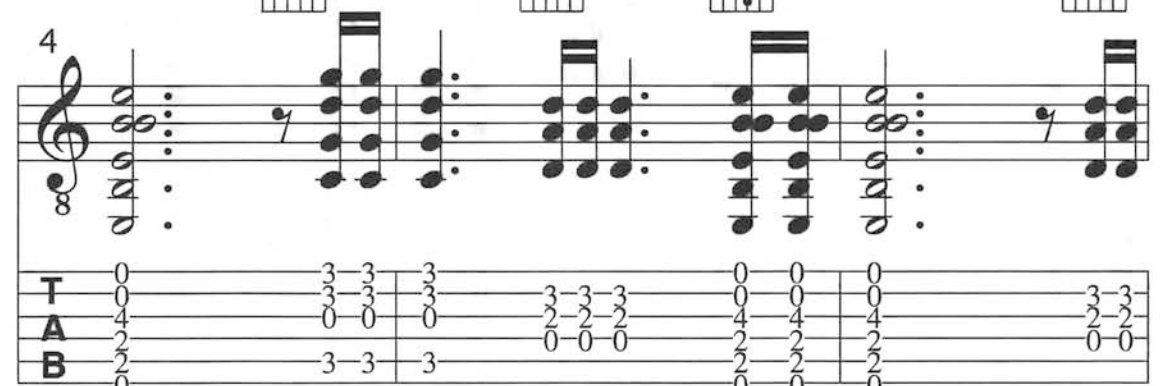
♩ = 125



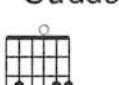
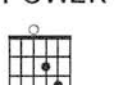
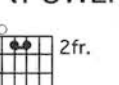
EPOWER  **DPOWER**  **APOWER**  **EPOWER** 



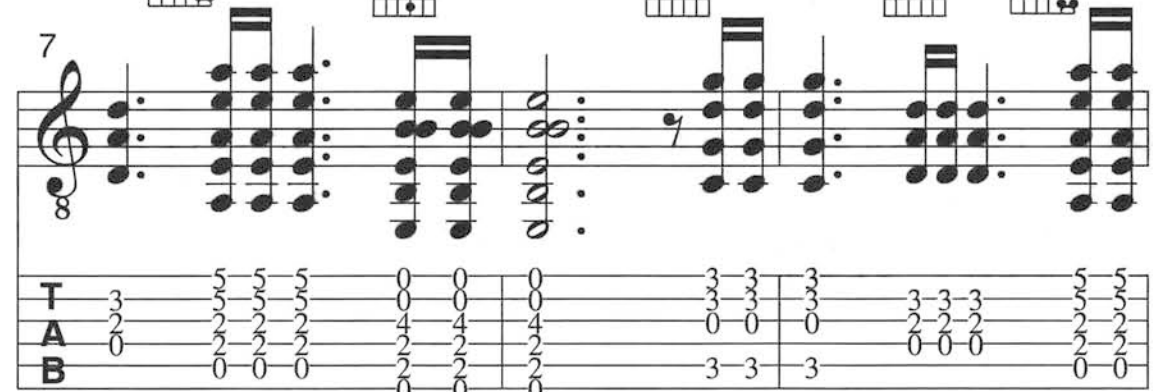
Cadd9  **DPOWER**  **EPOWER**  **DPOWER** 

4



APOWER  **EPOWER**  **Cadd9**  **DPOWER**  **APOWER** 

7



Cadd9 GPOWER APOWER Cadd9

10

TAB

DPOWER EPOWER DPOWER APOWER EPOWER

13

TAB

Cadd9 DPOWER EPOWER

16

TAB

- できるだけ多くの弦を使って、パワー・コードを生み出すためのエクササイズです。
- ★これはチマチマと演奏するようなエクササイズではありません。指先ではなく手全体を使ってガツーンとアグレッシヴに“ロック”してください!何と言ってもパワー・コードのポイントは、かき鳴らすことです。
- それぞれのパワー・コードの前にある2つの16分音符を見落とさないようにしましょう。これによって、ただパワー・コードを弾くだけではなく、音楽的にも面白く、楽しくなります。
- 躊躇することなく、腕を使って大きなストロークでピッキングしてみてください。
- bではパワー・コードのルールを破り、Cメジャー・コードにおけるDナチュラルの音、すなわちメジャー9thの音も使っています。理由はサウンドが非常に良いからです。時にはルールを破ることも恐れずに。

exercise12 root-5th●ルート(ボトム)+5度(トップ)のコード

♩ = 111 E5 G5 A5 E5

1

TAB

5 D5 E5 G5 A5 E5

5

TAB

9 G5 E5 G5 A5 G5 Gb5 F5

9

TAB

13 E5 D5 E5 G5 A5

13

TAB

16 E5 E5

16

TAB

●最も頻繁に使われる2音によるパワー・コードをマスターするエクササイズです。ルート音が下(ボトム)にきて、5度が上(トップ)にきます。古典的とも言える典型的な奏法ですが、常に時代を感じさせません。これを知らずしてロック・ギターは語れないと言えるでしょう。

■これもexercise11や他のパワー・コード・エクササイズと同様、とにかく“ロック”しまってください。

exercise13 5th-root●5度(ボトム)+ルート(トップ)のコード

Exercise 13 consists of four systems of musical notation. Each system includes a treble clef staff with a melody line, a guitar tab staff, and chord diagrams for E5, G5, and A5. The tempo is marked as ♩ = 110. The systems are numbered 1, 5, 9, and 13. The chord diagrams show the 5th fret (5fr) and 9th fret (9fr) positions for E5 and G5, and the 5th fret (5fr) position for A5. The notation includes slurs and accents to indicate the playing technique.

●exercise12を転回した逆の配列のパワー・コードをマスターするエクササイズです。つまり、5度がボトムで、ルート音がトップになります。ここではルートが最低音ではないので、ベースと一緒に演奏する際に非常に効果的です。またこの転回形のパターンは他のコードへの移動がしやすいので、複雑で忙しいコード進行の曲を演奏する場合には非常に 向いていると言えます。

★exercise12と同様です。

exercise14 root-5th-root●ルート+5度+ルートのコード

Exercise 14 consists of six systems of musical notation. Each system includes a treble clef staff with a melody line, a guitar tab staff, and chord diagrams for E5, G5, and A5. The tempo is marked as ♩ = 110. The systems are numbered 1, 4, 7, 10, 13, and 16. The chord diagrams show the 7th fret (7fr), 3rd fret (3fr), and 5th fret (5fr) positions for E5, G5, and A5. The notation includes slurs and accents to indicate the playing technique.

●exercise12と13のコンビネーションを考えてみましょう。これはexercise12や13とはまた別の分厚いサウンドになります。

■exercise12と同様です。

exercise15a 5ths w/palm muting and accents 1

●手のひらミュートとアクセントを使った5度のコード①

exercise15b 5ths w/palm muting and accents 2

●手のひらミュートとアクセントを使った5度のコード②

6 G5 A5 E5 G5

9 E5 G5 G#5

11 A5 G5 Gb5 F5 E5 D5 E5

14 G5 A5

16 C5 D5 E5 E5

- exercise 11から14の内容を、さらにレベルアップさせたエクササイズです。ここでの2つのエクササイズでは、ミュート・テクニックに焦点をあてます。
- ★ピッキングする側の手のひらをブリッジ部分に近い弦の上に乗せ、弦の振動を弱めて音を殺すわけです。よりタイトで強靱な、そしてワイルドな音が出せます。
- ★ミュートは、ある音やコードでミュートを解放したりミュートしないことによって初めてアクセントも出て効果が出ます。つまりミュートするしないによるコントラストが必要です。
- ミュートによるアクセントには無限の可能性を知ってください。

exercise 16 open A pedal riff ● オープンAのペダル・リフ

♩ = 106

A5 C5/A

3 D5/A G Let Ring D

5 A5 C5/A

7 D5/A F5 G5

9 A5 C5/A

11 D5/A G5 D A5

14 C5/A D5/A

16 F5 G5 A5 A5

- ひとつのスタイル上で、ミュートによるアクセントを発展させます。
- ★ここでは音楽的なアプローチによって、ミュートによるアクセントを付けていきましょう。
- ★オープンAの弦は常にミュートして、高音部である5度十ルートのコード部分はミュートを外してアクセントを付けます。ネック全体を通して5度十ルートのコード部分を動かしていくことによって得られる、サウンドの感じや雰囲気の違いを聴き取ってください。
- これらは、ミュートしたオープンAと、ミュートをしないアクセントの付いた5度十ルートのコードが一緒になったひとつのリフではありますが、ふたつの異なるパーツと考えることもできます。

exercise17 blues groove w/different fingerings
●異なるフィンガリングによるブルース・グルーブ

♩ = 105

F7 F5

G5 G#5 A5 Bb7

4

F7 C7

7

Bb7 F7 C7

10

F7

T
A
B

B \flat 7

T
A
B

A7 C7

T
A
B

B \flat 7 F7 C7

T
A
B

- ストレートなロック・ブルースを演奏する方法のいくつかを紹介するエクササイズです。
- ★ これは一般的によく聴かれるルート+5度の転回形で、5度から6度に全音上がって、それからさらに半音上がって短7度(フラット・セブン)となります。5度+ルートからのアプローチのときの音の移動には気をつけましょう
- Fコードでフラット7th(減7度。ここではE \flat)を弾くときは、D弦(4弦)にジャンプ(弦飛び)していることに注意しましょう。このポジションに関して言えば、これはA弦上で指を伸ばすよりはずっと簡単です。特に立って演奏するときにはなおさらです。これを教えてくれたポール・ギルバートには感謝しています。

exercise18 R+R groove ● ロックンロール・グルーヴ・エクササイズ

$\text{♩} = 141$ A7 H

T
A
B

3 H D7

T
A
B

5 H A7

T
A
B

7 H E7

T
A
B

9 H A7

T
A
B

11 H A7

TAB: 0 3 0 3 0 3 4 2 | 5 0 4 0 2 4 2 0

13 H

TAB: 0 3 4 2 0 0 3 4 | 2 0 3 4 2 5 0 4 2 0

15 D7

TAB: 0 3 4 2 0 0 3 4 | 2 0 3 4 2 5 0 4 2 0

17 A7

TAB: 0 3 4 2 0 0 3 4 | 2 0 3 4 2 5 0 4 2 0

19 E7

TAB: 0 3 4 2 0 0 3 4 | 2 0 3 4 2 5 0 4 2 0

21 A7

TAB: 0 3 4 2 0 0 3 4 | 2 0 3 4 2 5 0 4 2 0

23 A7

TAB: 0 3 4 2 0 0 3 4 | 2 0 3 4 2 5 0 4 2 0

- 開放弦を含んだパワー・コードを、他の可能な音を使って、いかに装飾するかを紹介するエクササイズです。
- これはコードを鳴らしきったときに良いサウンドが得られます。キーはAで、I-IV-V (ルート-4度-5度)というコードの動きすべてに開放弦を含んだオープン・コードが使われますので、ミュートはしません。
- これは“レッド・ツェッペリンの掟”とも言うべきものです。彼等の音楽を聴いてみてください。

exercise19 funky chords ● ファンキー・コード・エクササイズ

♩ = 105 G#7A7G#7 A7 A9 A9sus A9 G#A

TAB: 8/9 8/9 7/8 7/8 8/9 8/9 | 5 5 5 5 4 5 5 6

3 G#7A7G#7 A7 A9 A9sus A9 AG A

TAB: 8/9 8/9 7/8 7/8 8/9 8/9 | 5 5 5 5 5 3 3 5 4 4 6

5 G#7A7G#7 A7 A9 A9sus A9 B9 A9

TAB: 8/9 8/9 7/8 7/8 8/9 8/9 | 5 5 5 5 7 7 6 5 6 4 5

7 G#7A7G#7 A7 A9 A9sus A9 G#A G#A7

8 S S

9 G#7A7G#7 A7 A9 A9sus A9 A13(#9)

8 S S

11 G#7A7G#7 A7 A9 A9sus A9 A Adim G#7A7

8 S S

13 G#7A7G#7 A7 A9 A9sus A9 AG A

8 S S

15 G#7 A7G#7 A7 A9A9sus A9 A5

8 S S

●ファンキーなセブンス・コードを使って16分音符のタイム感を向上させるエクササイズです。

★タイトなグルーヴを保ち、それぞれの音はできるだけ短めに演奏してください。これはコードをプレイした後、フレットを抑えている手を即座に離すことによって得られます。それによって音はクリーンに、そして短くなるのです。

exercise20 R&B groove ●R&Bグルーヴ・エクササイズ

♩=100 G7 CF C G7

8 S H H

4 G7 CF C G7

8 S H H

6 C7 D9 Db9 C9 CF C

8 S S H H

8 G7 F#7 G7 CF C G7

8 H S H H

10 D7 C9

8 S

12 G7 CF C G7

8 S H H

●様々なコードの転回形を使って12小節のファンキーなR&Bグルーヴを演奏するエクササイズです。

★左右の手によるミュートを使って、タイム感を最大限に盛り上げていってください。

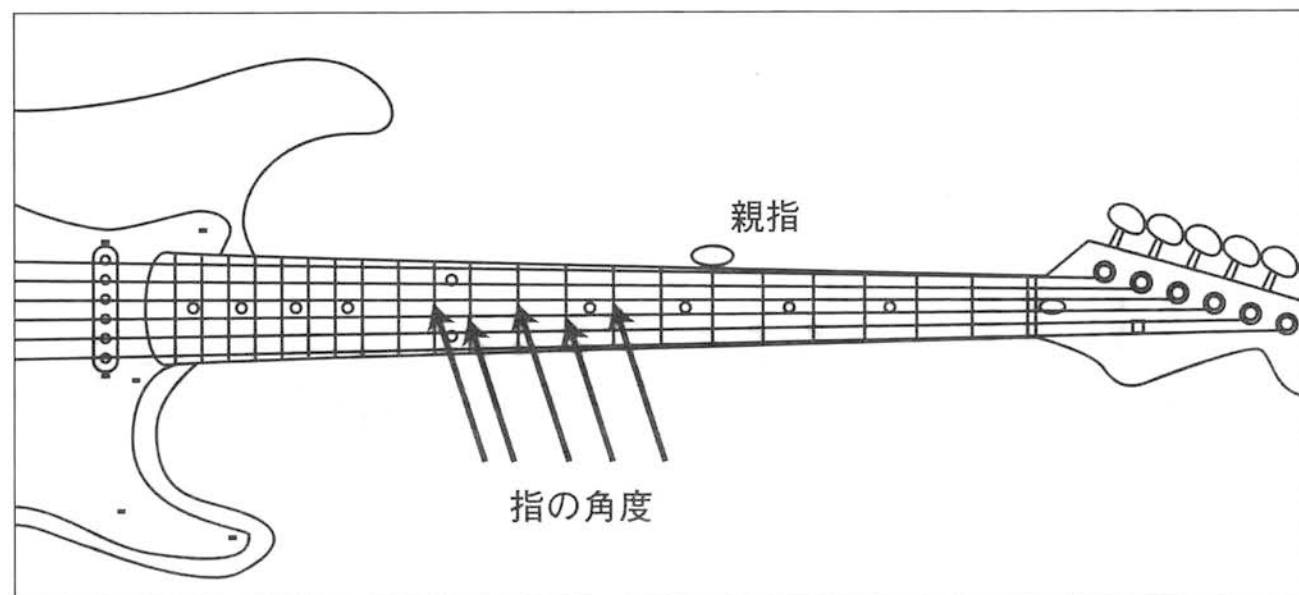
PART 3

Bending Exercises ベンド・エクササイズ

ギターの弦をベンドすることに関して最も難しい点は、ベンドしたときに正確なピッチ(音程)を出せるかということです。ベンドが足りなければピッチはフラット気味になってしまいますし、ベンドし過ぎればピッチはシャープ気味になってしまいます。ここで紹介するエクササイズは、皆さんが“スイート・スポット”と呼ばれる的確なベンド・ポイントを見出してもらうためのものです。少しだけビブラートをかけることが、そのための助けになるかもしれません。しかし、ピッチをごまかすためにビブラートをかけることはしないようにしてください。ベンドをするときは、フレットが最高の道具となります。フレットをうまく使うことによって、よりコントロールでき、ピッチを保つことができるようになります。

私が音をベンドさせるときは、以下の図のように、フレットに対して平行ではなく、対角線のようにフレットに向かって指を動かすようにしています。これによって、ベンドした指はフレットからはずれることなくフレット上で止まるので、ピッチも安定します。また、これによって親指をネックの裏側でしっかりと押さえることも容易になります(親指を深く握り過ぎないように気を付けましょう)。

そしてこのフレットをベンドする指とネックの裏側にある親指がテコのように、指の筋肉と一緒に手や手首の筋肉も、より一層効果的に使えるようになります。



exercise21 bending to correct pitch

●正確なピッチのためのベンド・エクササイズ

●ベンドによって出したいと思うピッチを正確に出すために、どのくらいベンドすべきかをしっかりと体得するためのエクササイズです。ベンドしたときのピッチが、フレット音でのピッチと同じように正確になることが最終的な目標になります。これは耳を鍛える、つまり音感を養うことにもなりますし、ベンドすることによって筋肉を鍛えることにもなります。

★まず、ベンドしたい音が明確に聞こえるまでフレット音を何回も弾き、ピッチをしっかりと確認します。それからベンドしたいピッチを正確に出すようにしましょう。

★「(1/2)」の「B」と書かれたのは半音ベンド、「(WHOLE)」の「B」と書かれたのは全音ベンドです。

■このエクササイズでは、テンポはそれほど重要ではありません。

■弦の張り(テンション)というのは、弦の太さによって違うことを理解してください。何フレットをベンドするかによっても弦の張りは違います。通常、一番張りの緩いフレットは12フレット目になり、そこから高音に上がっていったり、低音に下がっていくと張りは強くなっていきます。

exercise22 1/2 step bends in a major scale (ascending)

●メジャー・スケールにおける半音ベンド(上行)

- メジャー・スケールにおいて、ポジションを変えていきながら半音ベンドの感覚をつかんでいくエクササイズです。
- ★メトロノームを適切なテンポに設定し、あらゆるメジャー・スケールで練習してみてください。
- ★メジャー・スケールの場合は半音で隣り合う部分が2カ所あるので、このエクササイズでは各オクターブにそれぞれ2つずつの半音ベンド部分(EからFと、BからC)が出てきます。
- 曲を演奏している中でベンドしたときのピッチに自信が持てない場合は、テープに録音して聴き直してみましよう。それでも確かでない場合は、エクササイズをテープに録音してプレイバックしながら、それに合ったコードを弾いてピッチを確かめてみましよう。例えば、Gのメジャー・スケールのエクササイズであれば、Gメジャーのコードを弾けば良いわけです。

exercise23 1/2 step bends in a major scale (descending)

●メジャー・スケールにおける半音ベンド(下行)

- exercise22と同様です。
- ★exercise22と同様です。
- exercise22と同様です。

exercise24 1/2 and whole step bends in a major scale

●メジャー・スケールにおける半音と全音ベンド

- テンポとピッチを維持しながら、半音と全音ベンドをマスターするエクササイズです。
- ★あらゆるメジャー・スケールを使って、できるだけたくさんのベンドを練習してください。
- メジャー・スケール自体には半音と全音が含まれてますので、その意味でもこれは非常に有効なエクササイズです。
- 様々なキーでこのエクササイズを演奏することによって、耳と筋肉を鍛えることができます。

exercise25 mixed interval bending related to G

●G音に関わる様々なインターバルのベンド

♩ = 90 *8va*

T	12	14	12	12
A	12-14	(1/2)	(WHOLE)	(1/2)
B				

(8va)

T	13	15	15	17
A	12	12	12	15
B	(WHOLE)	(WHOLE)	(m3rd)	(WHOLE)

(8va)

T	18	17	15	15
A				12
B	(WHOLE)	(WHOLE)	(m3rd)	

(8va)

T	15	14	14	10-12
A	12	12	12	
B	(WHOLE)	(WHOLE)	(1/2)	S

●ピッチのコントロール力を付け、コモン・トーン(複数のコードやフレーズなどに共通する1つの音。ここではG音)に関わる様々な音程のインターバル(音同士の間隔)のベンドに慣れるためのエクササイズです。

★Gのコードを弾いて、まずはキー(調)をしっかりと理解しましょう。それからエクササイズを演奏し、異なる音程間のインターバルによってピッチの異なるベンドが生み出す、音の感じや雰囲気の違いを聞き取りましょう。

★各小節、各ベンドとも、常にGに解決しているということを忘れないでください。

★譜面上にある「B&R」とは、ベンド(Bend)し、リリース(Release)つまりベンドをはずしてベンド・ダウンさせるという意味です。また、「(m3rd)」とはマイナー3rd(短3度)、つまり全音+半音ベンドです。

■これらは様々な音楽スタイルの中で聴くことができ、よく使われ、演奏される音楽的なアイデアです。

exercise26 mixed intervals (lower octave)

●様々なインターバルのベンド・エクササイズ(1オクターヴ下)

♩ = 87

T	2	3	5	5
A				5
B	(1/2)	(WHOLE)	(WHOLE)	(WHOLE)

T	7	5	6
A			
B	(m3rd)	(1/2)	(WHOLE)

T	5	3	7
A			
B	(1/2)	m3rd	5

T	5	2	5	5
A				
B	(WHOLE)	(1/2)	(WHOLE)	(WHOLE)

●exercise25よりも1オクターヴ低い位置での様々なベンドによって、さらに異なるニュアンスを感じ取ってもらうエクササイズです。

★exercise25と同様です。

■exercise25と同様です。

exercise27 1/2 step "rubber" bends ●同音異フレット半音ベンド

♩ = 90 *8va*

1 15-14 B&R (1/2) 15-14 B&R (1/2) 15-14 B&R (1/2) 15-14 B&R (1/2) 15

3 *(8va)*

5 15-14 B&R (1/2) 15-14 B&R (1/2) 15-14 B&R (1/2) 15-14 B&R (1/2) 15

7

9 14-13 B&R (1/2) 14-13 B&R (1/2) 14-13 B&R (1/2) 14-13 B&R (1/2) 14

11

13 15-14 B&R (1/2) 15-14 B&R (1/2) 15-14 B&R (1/2) 15-14 B&R (1/2) 15

- ジェフ・ベックのプレイと似たようなベンド・スタイルの感覚を身に付けます。
- ★まず、それぞれの音を弾き、次にその半音下のフレットの音を最初の音と同じ音程(半音上)まで即座にベンドして弾き、そしてすぐにベンドした指を戻します。つまり、最初に出した音よりも半音下の音で終わるわけです。パターンやスケールを通してこの動きを繰り返します。
- ここではマイナー・ペンタトニック・スケールを使っていますが、自分でいろいろなスケールでも練習してみましょう。常にベンドする音はスケールの音よりも半音下の音になります。

exercise28 bending ups (w/vibrato)

●全音ベンド・アップ・エクササイズ

♩ = 90 *8va*

1 15 (WHOLE) 15 (WHOLE) 15 (WHOLE)

4

4 12 (WHOLE) 12 (WHOLE) 12 (WHOLE)

7 *(8va)*

7 15 (WHOLE) 15 (WHOLE) 15 (WHOLE)

- ゆっくりとした、しかもスムーズなベンドで正しいピッチを出すことによって、筋力と正確さを身につけるエクササイズです。
- ★まずはフレット音を弾き、ゆっくりと全音上の音にベンドしていきましょう。
- それぞれのベンドの最後で少しだけビブラートをかけるとピッチを維持する手助けになります。ただしピッチをごまかすためにビブラートを使わないように。
- 全音ベンド・アップする際には、常にペンタトニック・スケールを意識するとよいでしょう。

exercise29 pre-bending ●プリ・ベンド(ベンド・ダウン)・エクササイズ

♩ = 69

Pre Bend & Release *8va*

P.B.&R.

P.B.&R.

P.B.&R.

P.B.&R.

P.B.&R.

Loco

P.B.&R.

●幅広く使われるプリ・ベンドと呼ばれるベンド・ダウンのテクニックを身につけるエクササイズです。

★ここでは音をピッキングする前にまず、正確な音(ここではそれぞれのフレット音から全音上)にベンドしておかなければなりません。

★「P.B.」(Pre Bend)はプリ・ベンド(ベンド・ダウン)です。

■このベンドは少々面倒で練習を要します。弦をどの程度ベンドしたらどの音になるかとか、感触や想像でピッチがわかるようにベンド音を先取りする感覚を養うことが必要になります。とにかくフレットを把握し、頼りにすることが、ピッチをつかむ手助けになります。

PART 4

Soloing Exercises
ソロ・エクササイズ

ここに紹介するソロ・エクササイズでは、ネック上を縦横無尽に使い、皆さんのプレイをもっと自由にするを目的としています。例えば、一つのスケールであってもたくさんの演奏方法があるのです。スケールやパターンに親しむ新しい演奏方法を見つける事によって楽しみもさらに広がります。ただし、これらのエクササイズは、他のエクササイズよりも指を広げることになるので、無理をしないよう充分気をつけてください。

エクササイズに慣れてきたら、“フレージング”ということを考えながら音を足したり引いたりして、いろいろと試してみてください。

exercise30a-c F major scale 2 string patterns

●2本の弦を使ったFメジャー・スケール

a) ロ-E弦+A弦

♩ = 70

3 3 3 3 3 3 3 3

3 3 3 3 3 3 3 3

3 3 3 3 3 3 3 3

3 3 3 3 3 3 3 3

b) D弦+G弦

♩ = 70

3 3 3 3 3 3 3 3

T
A 3-5-7 3-5-7 5-7-8 7-8-10 7-9-10 8-10-12 9-10-12
B

3 3 3 3 3 3 3 3

T
A 10-12-14 10-12-14 12-14-15 12-14-15 14-15-17 14-15-17 15
B

5 3 3 3 3 3 3 3

T
A 19-17-15 19-17-15 17-15-14 17-15-14 15-14-12 15-14-12 14-12-10 14-12-10
B

7 3 3 3 3 3 3 3

T
A 12-10-9 12-10-8 10-9-7 10-8-7 9-7-5 8-7-5 7-5-3 7-5-3 3
B

c) B弦+ハイE弦

♩ = 70

3 3 3 3 3 3 3 3

T
A 1-3-5 1-3-5 3-5-6 3-5-6 5-6-8 5-6-8 6-8-10 6-8-10
B

3 3 3 3 3 3 3 3

T
A 8-10-11 8-10-12 10-11-13 10-12-13 11-13-15 12-13-15 13-15-17 13-15-17
B

6 3 3 3 3 3 3 3

T
A 17-15-13 17-15-13 15-13-12 15-13-11 13-12-10 13-11-10 12-10-8 11-10-8
B

8 3 3 3 3 3 3 3

T
A 10-8-6 10-8-6 8-6-5 8-6-5 6-5-3 6-5-3 5-3-1 5-3-1 1
B

- 2本の弦によってメジャー・スケールを弾くと、どのように展開していくのかを理解するエクササイズです。ここでは、各弦3音ずつの3連符で進行していきます。
- ★ まずは、このパターンにおける音型や運指を理解してください。そうすれば自ずとこのスケールに慣れることができます。
- ★ 他のメジャー・スケールにも取り組んでみてください。その際、スケールの(度数)ディグリーに注意を払うようにしてください。
- このFメジャー・スケールのエクササイズは、D(ナチュラル)マイナー・スケールにおいても機能します。
- b)はa)の1オクターブ上で音型は同じですが運指は異なります。c)も音型は似ていますが、a)b)とは始まる音が違いますので、シーケンスの形が違ってきます。

exercise31a-f G minor pentatonic patterns
●5つのGマイナー・ペンタトニック・パターン

a) ゾーン1

♩ = 70

b) ゾーン2

♩ = 70

c) ゾーン3

♩ = 70

d) ゾーン4

♩ = 70

e) ゾーン5

♩ = 70

3

5

f) ゾーン1(ファースト)

♩ = 120

3

5

- あらゆるペンタトニック・スケールのポジションに慣れ、指板全体を理解するためのエクササイズです。
- ★実際に弾いている弦のポジションだけでなく、すべての弦(指板全体)のポジションを視覚化できるようにしてください。それができるようになったら、a)からf)までのすべてのエクササイズを止まらずに連続して練習してみてください。
- これらのエクササイズをもとに、自分なりのエクササイズを作ってください。

exercise32 up all zones ●ペンタトニック・スケール・ポジション1(上行)

♩ = 70

3

5

- ペンタトニック・スケールを弾きながら、次に出てくるポジションを先取りし、前もって準備するためのエクササイズです。
- ★ひとつのポジション(1小節)の終わりに近づいたら、次のポジションにジャンプする準備をしてください。
- できる限り指板を視覚化することが重要です。

exercise33 down all zones

●ペンタトニック・スケール・ポジション2(下行)

●exercise32と同様です。
★exercise32と同様です。
■exercise32と同様です。

exercise34 up one zone, down the next

●ペンタトニック・スケール・ポジション3(上行~下行)

●exercise32と同様です。
★exercise32と同様です。
■exercise32と同様です。

●exercise32と同様です。
★exercise32と同様です。
■exercise32と同様です。

exercise35 down one zone, up the next

●ペンタトニック・スケール・ポジション3(下行~上行)

●exercise32と同様です。
★exercise32と同様です。
■exercise32と同様です。

exercise36a-b 2 string pattern #1 (up + down the neck)

●2本の弦を使った指板上の移動パターン1

a) B弦+ハイE弦

♩ = 90

1-4 1-4 1-4 4-6 4-6 6-9 6-8 6-8 8-11 8

1113 1113 1316 1316 16-18 16-18 18-21

1618 1618 1316 1316 11-13 11-13 9-11 8-11-8

6-9 6-8 6-8 4-6 4-6 1-4 1-4 4-1-4 1-4-1 1-4

b) A弦+D弦

♩ = 90

3-6 3-6 3-6 6-8 6-8 8-11 8-10 8-10 10-13-10

13-15 13-15 13-15 15-18 15-18 18-20 18-20 15-18-15

13-15 13-15 13-15 10-13 10-13 8-11 8-10 8-10 6-8-6

3-6 3-6 1-3 1-3 1-3 3-6-3 6-3-6 3-6-3 3

●同じペンタトニック・スケールを異なる見方で取り上げるエクササイズです。

★Fメジャー・スケールのエクササイズ (exercise36a-c)と同様に、ここでも最初に音型や運指を理解してからそのスケールのルートや他の度数(ディグリー)も理解し、確認しましょう。度数を覚えて理解することが非常に参考になりますし、演奏をする上の助けとなりパターンも理解しやすいでしょう。もしもどこにルート音があるのかもわからないと、ジャムなどでいろんな異なるキーの曲を演奏するときに、こうしたアプローチを使うことが非常に難しくなってしまいます。

★最初は耳で正しいスケールを聞き取ってください。ブックレットに記したテンポを守る必要はありませんが、すべてがスムーズに流れるようなテンポを選んで演奏してください。

■このFマイナー・ペンタトニック・スケールは、A^bメジャー・ペンタトニックとも同じ機能を持ちます。

■b)はa)の1オクターブ下の同じパターンで、音型は同じですが、指板上のポジションは異なります。

exercise37 2 string pattern #2 (up + down the neck)

●2本の弦を使った指板上の移動パターン2

a) B弦+ハイE弦

♩ = 90

T 1-4-4-1-4-6-6-4-6-4-6-9-9-8-6-9-6-9-11-8-11-8

T 11-13-13-11-13-16-13-16-13-16-18-18-16-18-16-18-20-18-18-16-18-21-18-20-18

T 16-18-18-16-18-16-13-16-13-16-13-11-13-13-11-13-11-9-11-8-11-8

T 6-9-9-8-6-9-6-4-6-6-4-6-4-1-4-4-1-4-4-1-4-4-1

b) A弦+D弦

♩ = 90

T S S S

A 3-6-6-3-6-3-6-8-8-6-8-6-8-11-11-8-10-8-11-8-11-13-10-13-10

T S S S

A 13-15-15-13-15-13-15-18-18-15-18-15-18-20-20-18-20-18-20-18-15-18-15

T S S S

A 13-15-15-13-15-13-11-13-13-10-13-10-13-11-8-11-8-11-10-8-11-8-6-8-6-8-6

T S S S

A 3-6-6-3-6-3-1-3-3-1-3-1-3-6-6-6-3-6-6-3-6-6-3

- exercise36と同様です。
- ★exercise36と同様です。
- exercise36と同様です。

exercise38 2 string pattern #3 (up +down the neck)

●2本の弦を使った指板上の移動パターン3

a) B弦+ハイE弦

♩ = 120

3 3 3 3 3 3 3 3

T 4-4-1 4-1-4 1-4-1 4-1 6-6-4 6-4-6 4-6-4 6-4

A

B

3 3 3 3 3 3 3 3

T 8-8-6 9-6-9 6-8-6 9-6 11-11-8 11-9-11 8-11-8

A

B

5

3 3 3 3 3 3 3 3

T 13-13-11 13-11-13 11-13-11 13-11 16-16-13 16-13-16 13-16-13 16-13

A

B

7

3 3 3 3 3 3 3 3

T 18-18-16 18-16-18 16-18-16 18-16 20-20-18 21-18-21 18-20-18

A

B

9

3 3 3 3 3 3 3 3

T 18-18-16 18-16-18 16-18-16 18-16 16-16-13 16-13-16 13-16-13 16-13

A

B

11

3 3 3 3 3 3 3 3

T 13-13-11 13-11-13 11-13-11 13-11 11-11-8 11-9-11 8-11-8 11-9

A

B

13

3 3 3 3 3 3 3 3

T 8-8-6 9-6-9 6-8-6 9-6 6-6-4 6-4-6 4-6-4 6-4

A

B

15

3 3 3 3 3 3 3 3

T 4-4-1 4-1-4 1-4-1 4-1 4-1-4-1 4-1 1

A

B

b) A弦+D弦

♩ = 120

3 3 3 3 3 3 3 3

T

A 6-6-3 6-3-6 3-6-3 6-3 8-8-6 8-6-8 6-8-6 8-6

B

3

3 3 3 3 3 3 3 3

T

A 10-10-8 11-8-11 8-10-8 11-8 13-13-10 13-11-13 10-13-10

B

5

3 3 3 3 3 3 3 3

T

A 15-15-13 15-13-15 13-15-13 15-13 18-18-15 18-15-18 15-18-15

B

7

3 3 3 3 3 3 3 3

T

A 20-20-18 20-18-20 18-20-18 20-18 18-18-15 18-15-18 15-18-15

B

9

T
A
B

11

T
A
B

13

T
A
B

15

T
A
B

- exercise36と同様です。
- ★ exercise36と同様です。
- exercise36と同様です。

exercise39 pull offs on lower string
●ローEの開放弦を使ったプリング・オフ

♩ = 130

1

T
A
B

2

T
A
B

3

T
A
B

4

T
A
B

5

6

7

8

- ローEの開放弦をペダル・トーンとして使って新しいリフを作り出すには最適のエクササイズです。
- ★マイナー・ペンタトニック・スケール、ブルース・スケール、ハーモニック・マイナー・スケールなど、様々な異なるスケールを使って新しいリフのアイデアを生み出してみてください。

exercise40 high squeals w/harmonics
●人工ハーモニクスによるロック・エフェクト

♩ = 143

5

- 人工ハーモニクスとベンドを使ったロック的なサウンド・エフェクトをマスターするエクササイズです。
- ★自分のソロ・プレイの中にこのパターンを組み入れてみましょう。いい感じのサウンドが得られるはずです。
- 「S.R. (SLOW RELEASE)」はベンドをゆっくりとゆるめ、「HOLD」はベンドしたまま固定します。

exercise41 muted riff w/squeals

●人工ハーモニクス+ミュートによるロック・エフェクト

●ヘヴィなミュートの後に、実際のフレット音寄りも1オクターヴ高い人工ハーモニクスを加えたロック的なエフェクトのコンビネーションをマスターするエクササイズです。

★ミュートに関しても人工ハーモニクスに関しても、常に最高の音を出すための最適なポジション(スイート・スポット)を探し当ててください。

■「A.H.」(Artificial Harmonics)は、人工ハーモニクスです。

exercise42 flange effect w/harmonics

●人工ハーモニクス+人工フランジャーによるロック・エフェクト

●エフェクターを使わず、人工的にフランジャー効果を出して楽しむためのエクササイズです。

★まず、アンプの方で十分なオーバードライブが出るようにセッティングしてください。そして、人工ハーモニクスを使って16分音符を弾きながら、ピッキングしている手をネックに対して平行に、ヘッドやブリッジに向かって行きつ戻りつさせて動かしていきます。

■効果がうまく得られないときは、親指と人差し指の間から出ているピックをさらに引っ込めてみてください。

Advanced Rhythm Exercises アドヴァンス・リズム・エクササイズ

パート5では、ライブやジャム・セッション、レコーディングなどにおいてよく聴かれ、使われる様々なリズム・グルーブを紹介していきます。ここでも、常にタイム感に注意を払うことを忘れないでください。それが演奏を楽しむことを可能にするのですから。

exercise43 southern rock groove ● サザン・ロック・グルーブ

♩ = 131 C7 (TIGHT)

T
A 5 5 5 5 7 5 5 7 8 8 7 5 5 5 7
B 6-7 5 5 7 8 8 7 5 6-7 5 5 5 7

5 F7 C7

T
A 5 5 7 5 10 10 10 10 12 10 10 12 10 5
B 6-7 7 10 11-12 10 10 12 13-13-12-10

8 CB♭A G G7

T
A 5 5 5 5 5 5 3 2 0 0 0 0 2 0
B 6-7 5 5 7 8 8 7 5 3 2 0 0 1-2 0 0 2 0

11 gliss. Eb5 C5 D5

T
A 3 0 3-2 0 5 5 5 5 5 5 8 7 5
B 1-2 5 6-7 5 5 7 8 8 7 5 8 7 5

14 S

T
A 5 5 5 5 7 5 5 7 8 8 7 5 8 7 5 5 5 7
B 6-7 5 5 7 8 8 7 5 8 7 5 5 6-7 5 5 7

17 F gliss. F Eb D C S

T
A 5 5 5 5 10 10 10 10 12 10 10 12 10 8 7 5
B 6-7 7 10 11-12 10 10 12 13-13-12-10 8 7 5

20 C7 CB♭A G G7

T
A 5 5 5 5 5 3 2 0 0 0 0 0
B 6-7 5 5 7 8 8 7 5 3 2 0 0 1-2 0 0 2 0

23

T
A 3 0 3-2 0 5 5 5 5 5 5 5 5
B 1-2 5 6-7 5 5 7 8 8 7 5 5 5

● サザン・ロックのグルーブをマスターするエクササイズです。ここでは主に5度(ボトム) + ルート(トップ)のボイスングを使っています。A弦とD弦を使い、人差し指だけで同じ転回型のボイスングを弾いているので、他の3本の指を使い、5度やルート音の周りでグルーブに装飾的なフレーズを加えることができます。

★ このスタイルの感覚をつかんだら、12のキーすべてで練習してみましょう。

■ ゆったりとレイドバックした感覚を出すために、コードをスムーズにスライドさせるようにしましょう。これも良い練習になります。

exercise44 metal ●メタル・グルーヴ

♩ = 115

A5 C5/A G/A D5/A C5/G

T
A
B

A5 C5/A G/A D5/A (Muted)

T
A
B

A5 C5/A G/A D5/A C5/G

T
A
B

A5 C5/A G/A D5/A

T
A
B

D5 E5/D F5/D G5/D F5/D

T
A
B

D5 E5/D F5/D G5/D

T
A
B

A5 C5/A G/A D5/A C5/A

T
A
B

A5 C5/A G/A D5/A (Muted)

T
A
B

- ミュートしたペダル・トーン、アクセントの付いた5度の音、そして、フレーズの頭に戻る際のシングル・ノートを組み合わせた、典型的なメタル・グルーヴをマスターするエクササイズです。
- ★リフがIVのコード(このエクササイズの場合はD)になる場合は、B弦の音を1フレット(半音)上げなければなりません。

exercise45 syncopated pull offs ●シンコペート・プリング・オフ

♩=180

Musical notation for measures 1-3. Chords: E7(#9), E7(#9). Includes guitar tablature for strings T, A, B.

Musical notation for measures 4-6. Chords: G5, E7(#9). Includes guitar tablature for strings T, A, B.

Musical notation for measures 7-9. Chords: A5, D/A. Includes guitar tablature for strings T, A, B.

Musical notation for measures 10-12. Chords: A5, D/A. Includes guitar tablature for strings T, A, B.

Musical notation for measures 13-15. Chord: E7(#9). Includes guitar tablature for strings T, A, B.

Musical notation for measures 16-18. Chord: B7(#9). Includes guitar tablature for strings T, A, B.

Musical notation for measures 19-21. Chord: E7(#9). Includes guitar tablature for strings T, A, B.

Musical notation for measures 22-24. Chord: E7(#9). Includes guitar tablature for strings T, A, B.

- プリング・オフを付け、シンコペーションを効かせたロックのグルーブをマスターするエクササイズです。
- ★ギターのピックアップ・スイッチを切り替えて、サウンドのバリエーションを試してみてください。
- このリズムには、ダウン・ビート(表拍)を先取りしたアクセントの付いたヒット音がたくさん含まれています。目立ったコードとして、EとBのコードにおけるドミナント7th #9thが使われています。このボイスングはロックやブルース・ギタリストには必須のものと言えます。
- 4小節目の最後に聴かれるGのパワー・コードにおける5度(ボトム)＋ルート(トップ)のボイスングにも注目してください。

exercise46 Texas blues chords ● テキサス・ブルース・コード

♩ = 122 E7(#9)

3

5 A7

7 E7(#9)

9 B7(#9)

11 E7(#9)

14

16 A7

18 E7(#9)

20 B7(#9)

22 E7(#9)

●南部のブルース・クラブで聴けるような典型的ブルース・コードをマスターするエクササイズです。

★1度とV度にあたるEとBのコードは、ドミナント7th#9thですが、A7のコードは、7度がトップにくる基本的なドミナント7thです。

■このエクササイズで最も面倒な部分は、2コーラス目に出てくるシングル・ノートで、A弦とE弦を32分音符の3連符でプリング・オフする部分があります。これはブルース・スケールを弾くにはちょっとおしゃれな感じなのですが、本物のブルースっぽさを出すためにも、タイミングは正確でなければなりません。

exercise47 slide guitar riff ● スライド・ギター・リフ

♩ = 71 G5 B♭AGC G5 B♭AGC G5

4 B♭AGC G5 B♭AG

6 S (Let Ring) C5 C G

8 B♭AGC G5 B♭AGC G5

10 B♭AGC G5 B♭AG B♭ G5

● 初歩的なスライド・ギターをマスターするエクササイズです。

★ スライド・バーを使った演奏方法には人それぞれ違ったアプローチがあります。私の場合はガラス製のスライド・バーを中指に差して使っていますが、薬指でも小指でも良いのです。いずれにせよ、スライドした後、スライド・バーとナット部分の間で弦の振動を止められるようにしてください。これによって必要のない音をミュートすることができます。

★ スライドはフレットの後ろ側ではなく、フレットの上に直接押し付けるようにしてください。また、音をしっかり鳴らそうと思って、スライド・バーをフレットに強く押しつけてスライドさせないようにしてください。強く押しつけ過ぎるとフレット・ノイズが発生することにもなります。

■ スライドによる演奏というのは、数少ないマスター達によって築き上げられてきたひとつのアート・フォームであると思います。このエクササイズでは、ヘヴィなロック・グルーブにおける非常に初歩的なスライド奏法を紹介したにすぎませんので、自分なりにいろいろと研究・練習してみてください。

exercise48 heavy ballad groove ● ヘヴィ・バラード・グルーブ

♩ = 83 A5 D/A A7 D/A

4 A5 D/A A7 D/A

6 A5 D/A A7 D/A

8 A5 D/A A7 D/A

●A7のコードを使って、ゆったりとしたヘヴィなグルーヴを楽しむためのエクササイズです。

★Aの開放弦と、1オクターブ上のフレット音のA(G弦の2フレット目)とが混ざり合い、6度のラインの移動において絶妙なコンビネーションを生み出しています。

exercise49 70's rock vibe ●70年代的ロック・スタイル

♩ = 128

A5 D/A A C F G D A

T 3 3 2 3 5 6 8 7 2
A 2 2 2 2 5 7 9 7 2
B 0 0 0 0 P 0 P 0

D A G D A5 D/A A C

T 3 3 2 3 2 2 3 2 5
A 2 2 2 2 0 2 2 2 2 5
B 4 4 2 0 0 0 4 4 2 5

F G D A D A G D

T 6 8 7 2 3 3 2 3
A 7 9 7 2 4 4 2 2+4
B 7 9 7 2 4 4 2 2-5-2-4 2-5-2

D/A A C F G D A D A G

T 3 3 2 5 6 8 7 2 3 3 2 3
A 2 2 2 5 5 7 7 2 2 2 2 0
B 0 0 0 5 7 9 7 2 4 4 2 0

D A5 D/A A C F G D A

T 2 3 3 2 5 6 8 7 2
A 2 2 2 2 5 7 9 7 2
B 0 0 0 0 5 7 9 7 2

D A G D A5

T 3 3 2 3 2 2 3 2
A 2 2 2 2 5 7 9 7 2
B 4 4 2 0 0 0 4 4 2 5

●70年代を代表するロック・グルーヴのひとつをマスターするエクササイズです。ここではコードは1度からIV度へと移動。2音のハンマリング・オンとプリング・オフがルート(ボトム)+5度(トップ)のボイスイングにおいて絶妙なスパイスとなっています。

★これはシンプルなサスペンデッド4thコードに代わる別の素晴らしい演奏方法です。例えば2小節目では、Aサスペンデッド4thコード(E-A-D)に近いサウンドを得るために、Aコードにおける3度の音であるC#を、4度であるDへと変えています。これによって勢いのある図太い音が生み出されるわけです。

■この奏法を代表するのは、なんといってもローリング・ストーンズのギタリスト、キース・リチャーズです。

exercise50 ballad in drop D tuning ●ドロップDバラード

♩ = 123 D

T 3 3 2 3 5 6 8 7 2
A 2 2 2 2 5 7 9 7 2
B 0 2 4 0 4 2 0 0 S 10 S 7 10

F5E5 D5

T H S P S harm.
A 7 9 7 7 5 2 0 2 5 7 7
B 7 9 7 7 5 2 0 2 5 0 3 2 0 S

F5E5

T 10 S S P
A 10 9 11 12 10 8 7 7
B 10 9 11 12 10 7 9 7 7 10 9 7 7 5 2 0 3 2

10 D5

T S P H S P

A S P H S P

B 0 7 10 7 9 7 7 5 2 0

13 F5 E5 D5

harm.

T S S H P

A S S H P

B 2 5 0 3 2 0 12 10 9 11 12 10 8 7 9

16 F5 E5 D5

harm. (8va)

T S S H P

A S S H P

B 7 7 10 9 7 7 5 2 0 3 2 0 harm.

- ローE弦を全音低いDに下げてチューニングし、ダイナミクスを付けるのに適したエクササイズです。
- ★ソフトでメロディックなロック・バラードを演奏する際の伝統的・代表的アプローチです。クリーンなサウンドが得られるくらいまでギターのボリューム・ノブを下げます。ネック側のピックアップを使って、ダークでソフトなサウンドを出します。
- キーはDメジャーですので、D弦、G弦、B弦7フレット目のハーモクス音を使っています。これによって美しいDメジャー・トライアド(A-D-F#)が得られます。

exercise51 drop D heavy 5ths●ドロップDヘヴィ・フィフス(5th)

♩ = 80 FEDE DG F EDF D5

p.m.

T S S H P

A S S H P

B 3 2 0 2 0 5 5 5 5 3 3 3 3 3 2 0 3 3 0

FEDF D Bb ABbAGF EDE FD

3 S

T S S H P

A S S H P

B 3 2 0 3 0 8 7 8 7 5 3 2 3 2 0 2 3 0

FEDF DG F EDF D

5

T S S H P

A S S H P

B 3 2 0 3 0 5 5 5 5 3 3 3 3 3 2 0 3 3 0

FEDF D Bb ABbAGFD FEDF D

7 S A

T S S H P

A S S H P

B 3 2 0 3 0 8 7 8 7 5 3 0 3 2 0 3 3 0 3 3 3 0 0 0

- さらにドロップDチューニングに親しむためのエクササイズです。
- 4弦のD弦を鳴らして、ローE弦を4弦よりも1オクターブ低いDにチューニングします。チューナーがなくても即座にドロップDチューニングができるようにしましょう。
- ★ミュートを使うと、サウンドがさらによく効果的です。
- Dにドロップ・チューニングした弦を強くピッキングしすぎると音程がシャープ気味になってしまうので注意してください。これは弦の張り(テンション)が通常よりもゆるむために起こるものです。

exercise52 drop D shuffle ●ドロップDシャッフル

♩ = 205 D

T
A
B

4

T
A
B

7 F5 G5

T
A
B

10 P.muted

T
A
B

13 D

T
A
B

16 FG5 P.muted

T
A
B

19 D

T
A
B

22

T
A
B

25 G#5 A5 P.muted

T
A
B

28 G5

T
A
B

31 F5 E5 Eb5 D5

T
A
B

34

T
A
B

37

T
A
B

40

T
A
B

●ドロップDチューニングで、3連符による速いロック・シャッフルを演奏するためのエクササイズです。Dの開放弦をオルタネイト・ピッキングしている間に素早いハンマリング・オンを組み入れます。

★3連符のハンマリング・オンを演奏するためには、ピッキングする側の手のひらによるミュートが欠かせません。

■最初はゆっくりと練習し、徐々にテンポを速めていってください。

demonstration 1

"Hot For Shuffles" by Scotty Johnson

アップ・テンポのロック・シャッフルほど、熱くなるものはないと思います。この曲はZZトップのようなGマイナーを中心としたブギが、途中でB♭マイナーに転調します。ここではブルース・スケールやマイナー・ペンタトニック・スケールをたくさん使っています。

ブルース・スケールとマイナー・ペンタトニック・スケールというのは構造的には似ていますが、非常に対照的な調性感(トナリティ)を生み出します。

demonstration 2

Comping Demonstration

ここではできるだけ多くのテキサス・スタイルのドミナント7thコードを使いました。また、いくつかのダイナミックなパワー・コードも聴き取ることもできると思います。スティーヴ・クロッパーのスタイルのような2音ボイスイングも取り入れてみました。

ファンキーなセクションに移ってからは、ドミナント7thコードではシンプルな3度と7度によるボイスイングを中心にしています。

特に誰かとジャム・セッションをするときなどは、常に自分で演奏するコードにルート音を入れる必要はないということは大事な点です。

demonstration 3

Bending Demonstration

全音ベンド、半音ベンド、メジャーやマイナー・3rdベンドなど、それら全てのベンドが、このサンタナに影響を受けたAマイナーのブルースの中に入っています。時折、音程のインターバルが離れたベンドをする時に、ネックを握っている親指を立てたりしています。これは、昔からあまり良くないとも言われているのですが、時にはルールを破って見るのも必要なことです。

また、ここでは自分の音楽的なアイデアを効果的に活用するべく、できるだけ多くのフレーズング方法を考えてみました。

demonstration 4

Soloing Demonstration

このデモンストレーションは、他のどのデモンストレーションよりもヘヴィなものになっています。代表的なナザン・ロックっぽい曲調によって、ここでは、Gマイナーにおける典型的なマイナー・ペンタトニックのアイデアを披露しています。このG-B♭-Cというコード進行に合わせ、Part 5で紹介したGマイナーのエクササイズを弾いてみるのも良いと思います。とにかく、思い切りロックしてください!

demonstration 5

Blues Jam

仲間とジャムするというのは常に楽しいものです。ここでトモ藤田は、素晴らしいFのブルースを弾いてくれているので、ゆったりとレイドバックしつつも、実にストレートな良い演奏になっていると思います。こうした要素はジャム・セッションにおいて非常に重要なのです。ソロを交互に演奏したり、その後でソロを同時に演奏したりと、これらは常に聴衆を喜ばせ、演奏する側にとっても楽しさに溢れたものです。

demonstration 6

"Roll the Bones" by Scotty Johnson

このデモンストレーションもロックの王道と言えるものです。この曲のリズム・ギター部分ではキース・リチャーズ的なアプローチを取っています。

ソロに関しては、メインのテーマ部分ではメジャー・ペンタトニック的なアプローチを取っており、リフレインの部分ではブルース・スケール的な雰囲気を取り入れています。そして、たくさんのベンドやビブラートが入っていることにも注目してください。

おわりに

このビデオを最後まで観てくれて、そしてこのブックレットを最後まで読んでくれてありがとう。自分が最も愛する世界のひとつである“ギター”に関する、こうした作品を皆さんに提供する機会が与えられたことに感謝しています。

最後に一言。何か少しでも新しいアイデアを見つけたら、とにかくそれを楽しんで演奏してください。

もしも何か質問や意見などがあれば、気軽にsjohnson@berklee.eduまでメールをください。あいさつだけでも構いませんよ。

それでは次回お会いするときを楽しみに。がんばって練習してください!

スコッティ・ジョンソン公式ウェブサイト

www.ScottyJ.com

Special Thanks

Thanks to Tomo Fujita, Sam Kawa, Hiroshi Noguchi, Chiaki Matsumoto, and everyone at Rittor music for making this Video possible.

Additional thanks to Larry Baione, Rick Peckham and everyone at Berklee College of Music.

Very special thanks to Paul Gilbert, Patrick and Robben Ford, Jeff Martin, Mike Varney and everyone else who has given me a chance to prove myself.

Mostly, I would like to thank my beautiful wife Joni for her unconditional and undying love, and my amazing parents for letting me follow my dreams and being there when I reached them.

プロフィール

マイアミ州立大で音楽学位を取得後、D'addario International Rock Contestにおいて2,000人の出場者の中からグランド・プライズを獲得する。

その後、Blues Bureau Internationalとのレコード契約を経て、ラスベガスの大ヒット・ショー、“Madhattan”の音楽監督を務める。

ボストンに移り、バークリー音楽院助教授としてギターを教えながら、ポール・ギルバートやロベン・フォードなどを始め、ロック／ブルース界の数多くの大物アーティスト達と世界中をツアーし、レコーディングを行っている。

アメリカ、日本を始め各国のギター誌のほか、各国のテレビ・メディアでも紹介され、その才能を高く評価されている。

CD/DVD インフォメーション

DVD

"Eleven Thousand Notes/Paul Gilbert"

SJ (Scotty Johnson): Guitars

CD

"Alligator Farm/Paul Gilbert" (Mercury)

SJ: Guitars/Keys

"Beehive Live/Paul Gilbert" (Mercury)

SJ: Guitars/Vocals/Keys

"Fords and Friends/Robben Ford", with Mark Ford, Patrick Ford, Charlie Musselwhite, Lowell Fulson, Fenton Robinson, and Luther Tucker (Blue Rock'it)

SJ: Guitars/Vocals

"Hotshots/Robben Ford Blues Band" (Blue Rock'it)

SJ: Guitars/Vocals

"Calling Up Spirits/Dick Dale" (Beggars Banquet)

SJ: Vocals/Engineer

"Little John Chrisley", with Ansley Dunbar and Michael Lee Ferkins (Blues Bureau Int'l)

SJ: Guitars/Engineer

"Blindside Blues Band", w/Jeff Martin and Greg Chaisson (Blues Bureau Int'l)

SJ: Producer/Songwriter/Guitarist

"Blindsided/Blindside Blues Band" (Blues Bureau Int'l)

SJ: Producer/Songwriter/Guitarist

"Messenger of the Blues/Blindside Blues Band" (Blues Bureau Int'l)

SJ: Producer/Songwriter/Guitarist

ロック・ギタリストのための
演奏能力開発エクササイズ

『ロック・ギタリストのための演奏能力開発エクササイズ』解説書

採譜・解説：スコッティ・ジョンソン (Scotty Johnson)

翻訳：サム・カワ (Sam Kawa)

浄書：山岡 博 (Hiroshi Yamaoka) / DTP：波多江潤子 (Junko Hatae)

企画制作：株式会社リットーミュージック

無断複製・転載を禁じる VWD-228